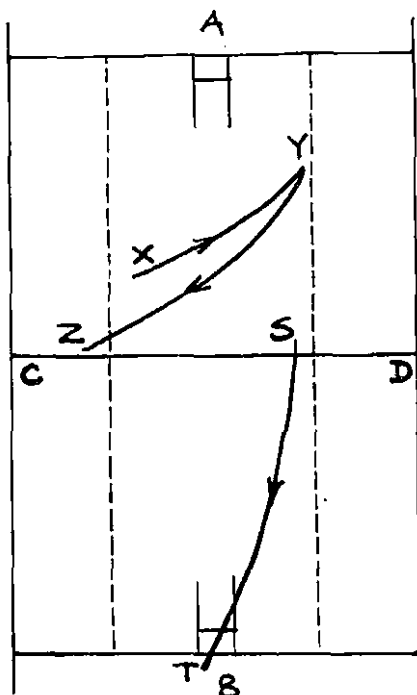


再発見 The Art of Refereeing (5)

第4章 4.よい位置をとること再読

タッチラインを避ける

ボールを獲り合う場面がフィールドの一方側から他方の側へ瞬時に移動する場合があります。左ウイングが右のウイングへクロスキックを上げた場合やバックラインに沿ってウイングへパスをつないでいった場合等です。レフリーは同時に2つの場所に居ることは出来ません。それは出来ないのだから答えはプレーを出来るだけインフィールド側から見えるようにすべきであるということです。勿論タッチ側に立って見えなければならない場面も多い。そのはっきりした側はタッチライン側からスクラムにボールが入られる場合です。この場合、じっと立ち止まっていたはいけません。(いつものように)出来るだけ早くスタートしてプレーインフィールド側に戻る習慣通りに位置しなければなりません。



この秘訣を学んだレフリーは第1図の2つの点線で囲まれた部分の内側でゲームの大部分をしていることに気付くでしょう。この地域でゲームを見ているレフリーは「よい位置」からあまり離脱してしまうことは決してないでしょう。Bチームの攻撃がタッチラインDに向かって展開されている場合は、プレーに対して対角線に動きなさい。レフリーのコースは大体XYラインとなるでしょう。プレーの進行が速くなればなるほど、レフリーのコースはタッチラインに平行に近くなるでしょう。反対にプレーの進行が遅ければ遅い程ゴールラインに平行になるでしょう。ごく稀なケースですがレフリーコースがタッチラインに平行になることがあります。常にプレーに向かって一定の角度をもって動いていなさい。

プレーが前後に方向を転じた場合はレフリーの移動パターンはフィールドの点線の中で色々な角度で一連の対角線となります。いつでも最短距離を走っているうちにどうすればプレーの近くで的確に見えることが出来るか分かるようになるでしょう。

適正な位置取りを取っているレフリーによってそのコースを図に示されるならばそれをゲーム中の多くのケースについてのコース分解して学ぶことが可能となります。例えば図のSTラインはAチームによるハーフウェアライン付近の突進に続いてタッチライン地点よりライン沿いの快走のよりポスト中央にトライがなされた時のレフリーのコースを示しています。コースXY-YZはBチームによりパス展開によりゆっくり目の前進があった後、捕ってつぶされ今度はAチームによってタッチラインCへキックされた結果のコースを示しています。

この簡単な原理をレフリーング技術の基本にしているレフリーは自分の技術が十分上達しているのでもいつでも最小の全力疾走でゲームについていくことが出来るということが分かるでしょう。このことは彼に明白に物事を考える余裕を与えてくれます。全力疾走は身体的な努力だけでなく、精神集中を要し精神的なエネルギーを消耗するからです。常時全力で走ってなくてもよいならばもっと冷静に物事を考えることが出来るということです。更に付け加えるならば本当に全力で走っている時、急いで上がったリ、方向転換するのに数ヤード要するものです。プレーは一瞬に方向が変わりことがあります。インターセプトの場合は時に極端な例ですがレフリーには悪夢というべき事態です。そんな時出来る限り素早く止まったり、方向転換することでそれ以外に救いはないのです。

若いレフリーは数シーズンこのような境地に到着しないでしょう。しばらくの間は間違いのない莫大なエネルギーを費やすことでしょう。

彼にとって先ず第一にしなければならないことは走ることです。やがて賢く走ることを学ぶでしょう。そして最後のゴールです。それは単に呼吸することを節約するだけでなく、レフリーングの効率を増やすことにもなるのです。

それではここでよい位置をとることについて重要な技術の基本的な一般原理をまとめてます。

1. 関連する（スクラム等以外の）プレーによってゲームが止まった時、次の展開に遅滞なくスタートし移動する
2. 出来るだけインフィールド側からプレーを見ること
3. 全ての一般的な移動はプレーに向かって動きタッチラインに平行に動かない
4. タッチライン近くに位置しなければならない時、直後に飛び離れるようにする

普通一般的には譲許が全く同じでない場合もあります。一例を上げれば沈む前の太陽が低いところからグラウンドに差し込んでいる時、プレーのインフィールド側にいることによって太陽のキラキラ光りをまぶしがって辛抱しているようなことは不必要です。

よい位置をとることについて本にそんなに多く書かれていませんが賢い人は出来るだけ太陽を背にするようにしています。言いかえれば彼は本に書かれていない一般的理論を埋めるのに普通のセンスを使うのです。一般理論についてもそうですが、結局のところ異なった状況についてはその時々に応じた位置をとるべきであるということがヒントです。

パスによる展開とゴールライン近く

パスからパスへとつながられてボールが前へ進むときのことについて簡素に言えません。一番要求されることは追うれーについていくということです。それ以外にはありません。パスによるプレーが続いている間、よい位置にいるということは、先へ先へと進むプレーを追って常によりよい位置をとるということです。だからすでに述べたことですが強調しておきます。

タッチラインに平行に走ってはいけません、プレーが進んでいる方向に対角線となるように走ることです。

ボールを持っているプレーヤーより少し前の位置からスローフォワードを判断すればボールを持っているプレーヤー全く水平の位置から見より判定が楽です。

パスが次々で行われてレフリーがそれについて走っている時、突然に方向が変わるようなことがあってもプレーの邪魔にならないように避けることを心に留めておきなさい。

ゴールライン近く

プレーが一方のゴールラインで行われている時は他のどの場所より以上に留意して爪先で立っていないさい。どんな瞬間にもトライがなされたかどうかを判定しなければならないかもしれないのです。その時どんなコストを払っても見逃すことを避けねばなりません。プレーがゴールラインに近づいてくるとプレーの少し前に位置することです。とくにフォワードラッシュ、モールやラックの時は。事実、プレーがゴールラインから1~2ヤード以内で行われている時の最もよい位置は、ゴールラインを越えてインゴールにいるということです。ボールがラインを越えたらはっきりと見えるでしょう。両方の2人のプレーヤーがほとんど同時にボールに飛び込んだとしても彼らがボールとレフリーの間に入って邪魔になるということはないでしょう。同様にボールがゴールラインを越えて持ち込まれた場合も正しくグラウディングされたかどうか判断するための非常によりよい位置にいるのです。

勿論、プレーが進行していく中でのあらゆる状況においてその場合の位置の正否が判断されるのですがトライまたはタッチダウンされる前にゴールラインを越えるということは決して悪いことではないのです。

注意：本文は古い本の再読のため、ルール及び解釈は当時のものをそのまま使用しています

2010. 10. 30
西川 義行